


団体名	NPO法人飛騨高山わらべうたの会		活動タイトル	「飛騨での子育て楽しい！」と思える『つながり』作り3rd		
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）				■活動風景		
●望ましい社会状況(ビジョン)	<p>当団体の実現したいビジョンは「親子のふれあい、地域の方々のつながりの深い『子どもの笑顔があふれる街』『地域ぐるみでみんなで子育て』という社会」である。日本一広い面積を持つ高山市では、子育て支援施設やイベントが市中心部に集中し、中山間地域に住む子育て家庭は孤独感や疎外感を感じがちである。それぞれの地域で、子育て家庭が、母親同士、世話役となる組織や人々をつなぎ、交流したり相談したりできるような「地域みんなで楽しく子育て」という環境作りを目指したい。</p>			親子で楽しむワイワイカフェ	 <p>個人からの依頼による出張講座を開催。新たにスキルを週とKらうしたスタッフにより、わらべうた遊びや木軸ワークショップ、座談会などを実施し、多くの子育て家庭に喜ばれました。</p>	
●団体の社会的役割(ミッション)	<p>当団体の社会的役割は、地域ぐるみの子育て支援体制を作り、豊かで健全な子どもが育つ環境を作る事である。その為に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子育て当事者が孤立しないよう、困窮家庭も含めて一軒一軒しっかりと寄り添い、当団体及び地域の方々とのつながりを作る ② 行政、まちづくり協議会、子育て支援団体等、様々な組織と連携をとり、子育て支援を行える担い手を発掘、育成する ③ 子育て当事者が子育てを楽しめるように、地域文化（わらべうた）や地域資源（木育）などを子育てに活かしていくノウハウを伝えていく 					
●団体の活動基盤	<ul style="list-style-type: none"> ●人材育成：WEB、書類、渉外（ファンドレイジング）を担える人材の育成。わらべうたや木育に精通し、出張講座を担える人材の育成。 ●物的資源：端材、木工道具、絵本、木のおもちゃを寄付して頂けるようなネットワークの構築。 ●活動資金：事務局員の人件費確保の為に、協賛企業が100社存在（一口5000円×100社）。自主財源（会費、寄付、自主財源）を充実させ、今回のような緊急支援など、必要のある事業に活かせる財力の確保。 ●情報：スタッフ全員で情報共有できるようなクラウド等のシステム構築。人材育成の為にマニュアル作り。 					
■活動報告				■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>助成3年目は、感染症対策も考慮しての「各地域での小規模の交流広場（ワイワイカフェ）開催」と、どの地域でも主体的に子育て支援を担える「人材発掘・育成」に重点を置いた。殊に人材発掘・育成については、コロナ禍と前年の豪雨災害で多くの子育て家庭が孤立した事から最も重点的に取り組み、日本一広い高山市で子育て支援者を40名発掘することができた。この「びい・ほいサポーター」は、ほとんど保育士、看護師など資格があり、即戦力として、早速地域の中で子育て支援に携わっていただいている。</p> <p>また、課題であった団体内のスタッフ育成も、今年度かなり進める事ができ、ワイワイカフェを担当できるスタッフは昨年比2倍の8名、事務局スタッフについては、WEB、書類、ファンドレイジング担当をそれぞれ1名育成する事ができた。</p> <p>それらのスタッフの活躍によって、各事業の機能や機動力が飛躍的に向上した。</p>				<p>まちづくり協議会（以下、まち協）との協働によるワイワイカフェを全てのまち協に拡げるという目標を立てて取り組んだが、今年度、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が半分以上の期間に適用された為、どのまち協も新たな事業を組むという事には慎重で、3箇所増やせただけにとどまった。しかし、児童館のないあるまち協では、定期的な子育て広場の開催が始まり、その地域の子育て家庭の交流拠点として機能している。</p> <p>一方、個人依頼のワイワイカフェは、私達と顔なじみになった母親が、コロナ禍で孤立する母親を誘っての定期的な開催も始まり、本当に多くの子育て家庭に喜んでもらえた。</p> <p>また、各地域での子育て支援員の発掘・育成については、40名もの人材を発掘する事ができ、セミナー受講と平行して、早速子育て支援に携わっていただいている。</p> <p>当団体内のスタッフのスキルアップについても、ワイワイカフェ担当者が4名から8名に倍増、いろいろな地域に赴いてわらべうた遊びや木育ワークショップ、更には相談業務にあたっている。事務局運営体制としては、WEB、書類、ファンドレイジング担当を各1名ずつ育成し、都度都度代表の岩塚と、次期継承者として育成中のスタッフが内容をチェックしながら、実際の業務にあたってもらっている。（育成中のスタッフは30代で、まだ子どもが5歳になったばかりだが、幼稚園教諭の免許を持ち、既に一緒にわらべうた講習に出かけたり、様々な所との渉外も担ってもらっている）</p>		
■事業を通じて得られたノウハウ				■望ましい社会状況を達成するための課題		
<p>今年度大きな成果として、子育て支援スタッフ（びい・ほいサポーター）養成講座の実施があげられる。助産師、発育サポート認定士、小児科医、産後ケア指導士など、専門家によるセミナー開催により、各地域で発掘した支援スタッフの育成を行う事ができた。このセミナー内容をマニュアル化、体系化し、次年度以降の人材育成に役立てたい。</p> <p>また、当団体においては、これまでわらべうたの講習に出向いていたスタッフが、他のスタッフを4名選出し、定期的にわらべうたの講習を行い、ワイワイカフェを任せられる人材を増やす事ができた。更に、木育についても、スタッフの特性や趣味、特技を吟味し木育専任スタッフを3名選出、県の木育講習参加や県木育推進員とのやりとりを通して、飛騨地域における木育推進を積極的に実施できるようになった。また、事務局においては、経理業務、WEB業務、書類業務をマニュアル化し、複数のスタッフが担えるようにし、業務の偏りを改善する事ができた。</p>				<p>助成3年目は、何よりも私達が大きな目標としてきた「地域ぐるみの子育て支援環境の構築」について、予期せぬコロナ禍のおかげもあって、加速度的に進めていく事ができた。各地域で支援に携わる多くの人材を発掘・育成できた反面、各まち協との協働は思った以上には進まなかった。</p> <p>それは、まち協役員がどれほど「子育て支援環境構築の重要性」を認識しているか、その必要性を理解してもらえなかった事に起因している。「うちは子育て家庭はそんなにないので」「コロナ禍でイベントができないうちに防災にお金を使いたいので」「これから乳幼児親子を担当する人を探して部門を作るのが大変」など、いろいろな所で難色を示された。中には「もうやってます」と言う地域もあり、それは地域のもちつき大会だったり夏祭りだったり、全住民参加対象のイベントに子育て家庭も参加してる、という形態にすぎず、子育て家庭と地域の方々とのつながり作りにはつながっていない。</p> <p>今後、この「地域ぐるみ」という所の必要性を、未だ協働ができていない地域のまち協に対して丁寧に説明を行い、「全市において子育て支援環境が整っている」という状況を作り上げたい。</p>		
■活動成果のアピールポイント（自由記入）				この1年間の活動を通じて	地域ぐるみの子育て支援環境の構築	を達成しました。
■受益者の具体的な変化（自由記入）				<p>顔なじみになった母親が、地域の移住家族を誘って交流広場（ワイワイカフェ）を企画するようになり、支援を要する母親の中から、孤独を感じている母親の手助けをする等、当事者が活動を支える担い手として成長している。コロナ前、大きなイベントに大勢の親子が参加する形の活動では、受益側の母親と深くつながっていく事はなかなかできなかったが、ワイワイカフェを3年間実施する中で、受益側である母親の中から「私も少しなら手伝えるかも…」という人が表れてきたのは大きな成果と言える。それは、スタッフ皆が、ワイワイカフェ実施の中で、一人一人の母親と丁寧に向き合い、自分達の思いを伝え、この活動の必要性を伝え、それが多くの母親に伝わったからだと思う。</p>		